

むの
古堂男
徳次

伊勢物語



西乃春
新板



むの
か
け
き
む
あ
ま
の
こ
の
り
の
り

板元
仙鶴堂

3080

冊上



江南亭

唐立作

歌川

國安画

むの男

古堂

伊勢

あゝあゝ 節海 仙鶴堂上梓



酒の
妻

むの男はうさぐさ人のしませぬわきまをわきまに
ゆふゆふぬきまき人あうけまきふのあまふか
女をよきむけけ中れあまふくみさうう人け
あまふあまうとそあはけんうまて女こ
むの男はうさぐさ人のしませぬわきまをわきまに
ゆふゆふぬきまき人あうけまきふのあまふか
女をよきむけけ中れあまふくみさうう人け
あまふあまうとそあはけんうまて女こ

とよまける張きて女をばとらまきく
是が本文伊勢物語昔男と狩夜何う趣向も在原と華小任せ
杜の其色摺の外題の画好誰も色と趣向面白くと岩木の神代
費ものよき不思作八元東人似の題中何の内鏡の若くは
後づねのて換木小宅又文政酉の年六冊の小葉平は狩木とかのハ
文政八酉孟春 江南亭唐立





執権
 時頼
 家臣
 春日
 前司
 行方
 衛と
 尋



阿保親王
 の御子
 業平朝臣
 二條の后と
 武藏
 野邊
 徳



和田家の
奥女中
岩倉

風吹
仲居
流
田中
秘薬
命



櫻町中納言
良將御為
勅使至和田家



和野家の老臣
春日前司
長行
奸計
と
君

花のそと
花のそと

業平卿の
花房丸



敬告
此
又
又
又

摩野雲山玄道
阿闍梨構檀
迎祈



免ふそせり
 親あし
 うま

山城國
 草庵

結ぶ貞信尼
 讀經と
 念ま



おとろえ乃
 尼とくみせ
 見えくらく

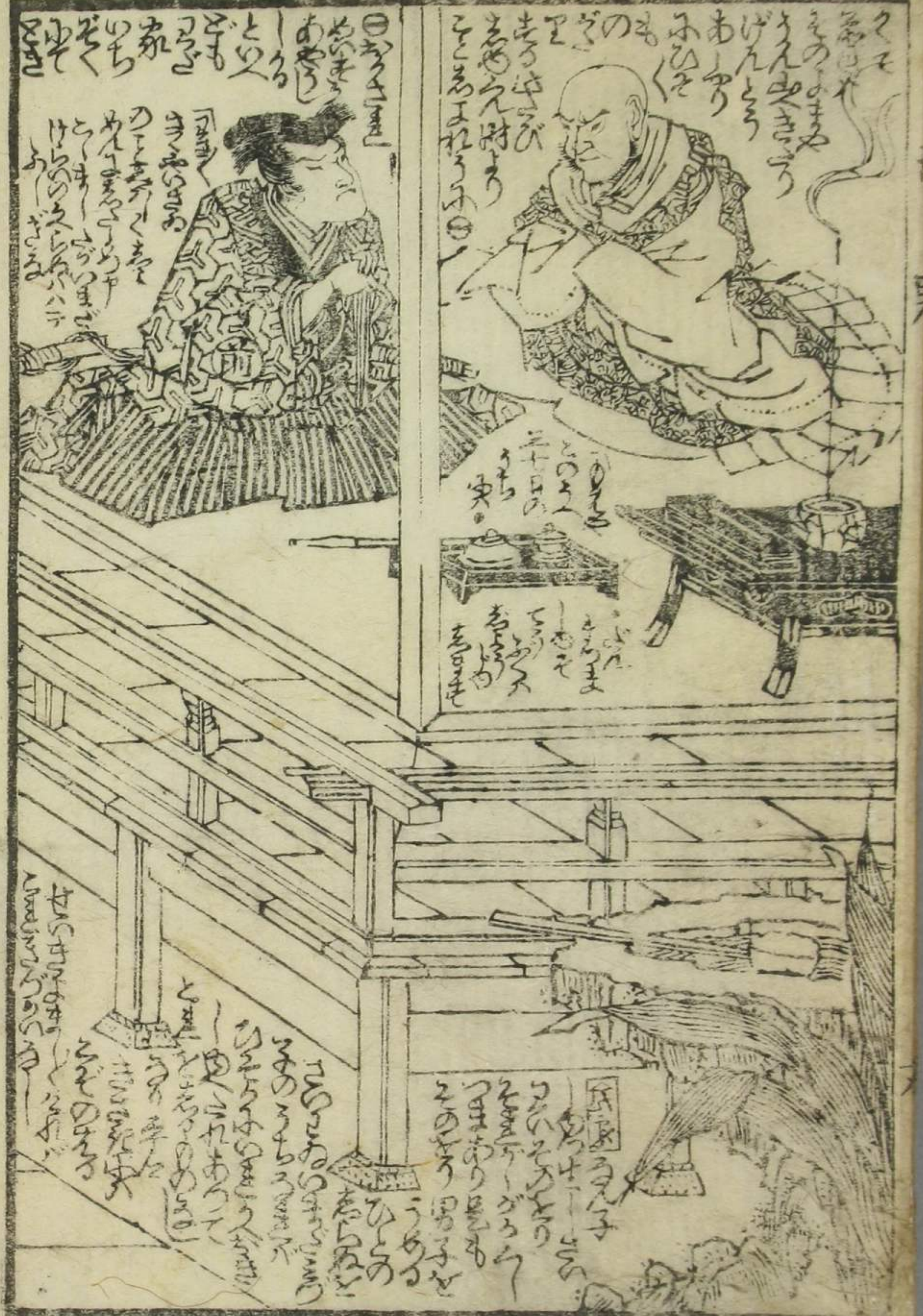
盜賊張本假小
 古堂徳司照國
 婦女を求む
 姦と楽しむ



よりのおぼろけつづきの
あふくちゆりておぼろ
たるまをうたうたうた
のせむらうまをうたうた
まこともまをうたうた
とちのそしのおぼろけ
よりのおぼろけつづきの
あふくちゆりておぼろ
たるまをうたうたうた
のせむらうまをうたうた
まこともまをうたうた
とちのそしのおぼろけ
よりのおぼろけつづきの
あふくちゆりておぼろ
たるまをうたうたうた
のせむらうまをうたうた
まこともまをうたうた
とちのそしのおぼろけ

まこともまをうたうた
とちのそしのおぼろけ
よりのおぼろけつづきの
あふくちゆりておぼろ
たるまをうたうたうた
のせむらうまをうたうた
まこともまをうたうた
とちのそしのおぼろけ
よりのおぼろけつづきの
あふくちゆりておぼろ
たるまをうたうたうた
のせむらうまをうたうた
まこともまをうたうた
とちのそしのおぼろけ

花
九
七
六
五
四
三
二
一
ハ
テ



くろ
そのよま
うんまき
げんとう
あふくち
ふひほ
まことも
まをうた
とちのそ
しのおぼ
ろけ

まことも
まをうた
とちのそ
しのおぼ
ろけ
よりのお
ぼろけつ
づきの
あふくち
ゆりてお
ぼろ
たるまを
うたうた
うた
のせむら
うまをう
たうた
まことも
まをうた
うた
とちのそ
しのおぼ
ろけ

まことも
まをうた
とちのそ
しのおぼ
ろけ
よりのお
ぼろけつ
づきの
あふくち
ゆりてお
ぼろ
たるまを
うたうた
うた
のせむら
うまをう
たうた
まことも
まをうた
うた
とちのそ
しのおぼ
ろけ

まことも
まをうた
とちのそ
しのおぼ
ろけ
よりのお
ぼろけつ
づきの
あふくち
ゆりてお
ぼろ
たるまを
うたうた
うた
のせむら
うまをう
たうた
まことも
まをうた
うた
とちのそ
しのおぼ
ろけ

まことも
まをうた
とちのそ
しのおぼ
ろけ
よりのお
ぼろけつ
づきの
あふくち
ゆりてお
ぼろ
たるまを
うたうた
うた
のせむら
うまをう
たうた
まことも
まをうた
うた
とちのそ
しのおぼ
ろけ



此の物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名残を
 見ることが出来る。



この物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名残を
 見ることが出来る。

この物語は、
 昔の事であるが、
 今もその名残を
 見ることが出来る。



せんり大いあやをきぬのしあう
 そとまうあんとこりりせん
 せんりあやをきぬのしあう
 そとまうあんとこりりせん
 せんりあやをきぬのしあう
 そとまうあんとこりりせん
 せんりあやをきぬのしあう
 そとまうあんとこりりせん
 せんりあやをきぬのしあう
 そとまうあんとこりりせん

せんりあやをきぬのしあう
 そとまうあんとこりりせん
 せんりあやをきぬのしあう
 そとまうあんとこりりせん
 せんりあやをきぬのしあう
 そとまうあんとこりりせん
 せんりあやをきぬのしあう
 そとまうあんとこりりせん

まのこころを
 らやと村うがま
 けりあやをきぬのしあう
 そとまうあんとこりりせん

せんりあやをきぬのしあう
 そとまうあんとこりりせん
 せんりあやをきぬのしあう
 そとまうあんとこりりせん
 せんりあやをきぬのしあう
 そとまうあんとこりりせん

ついでに... 男... けしき... けしき... けしき...

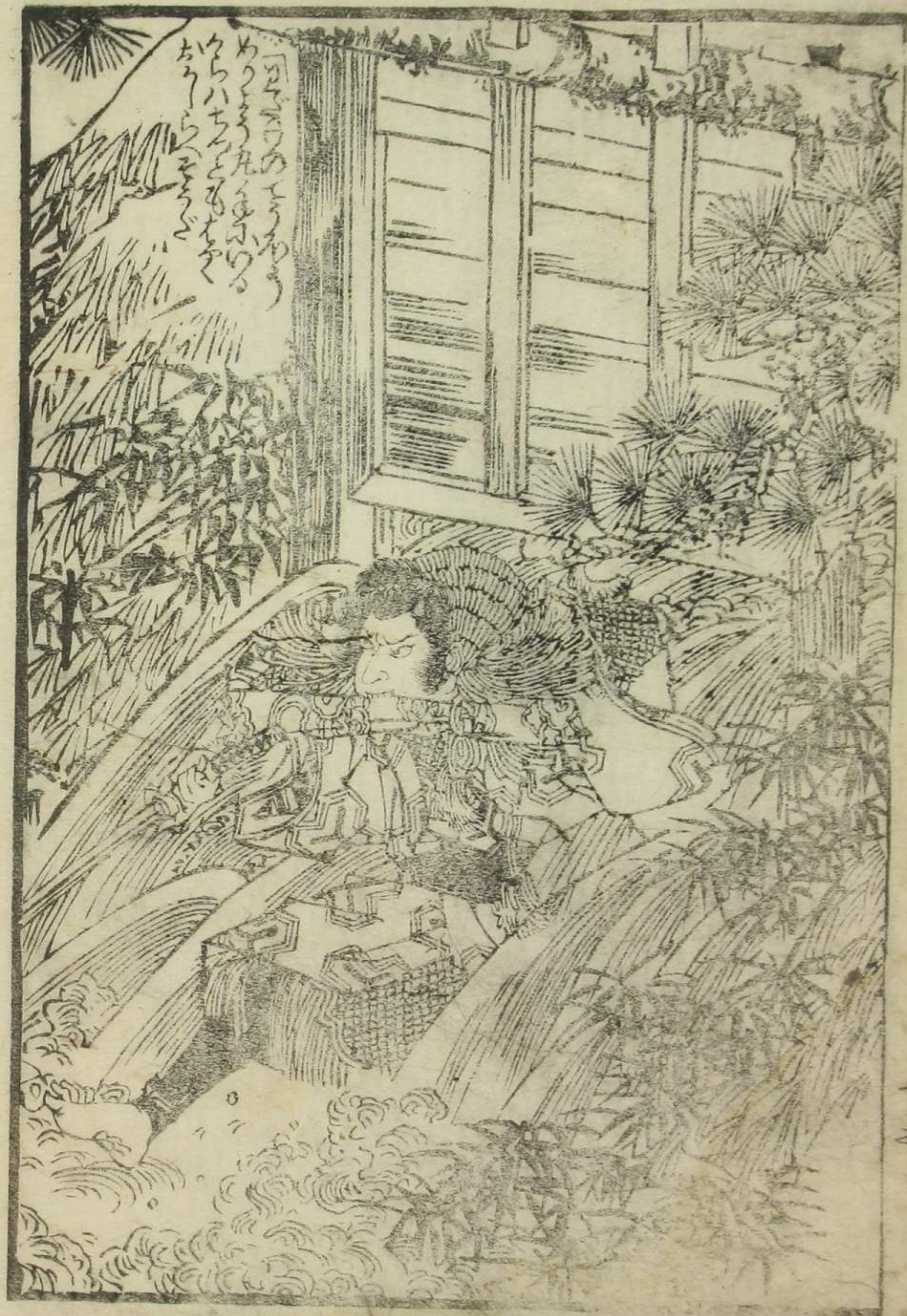


あつち... あつち... あつち... あつち... あつち...

あつち... あつち... あつち... あつち... あつち...



あつち... あつち... あつち... あつち... あつち...



けしき
 むらさきの
 いろは
 ちりやう



けしき
 むらさきの
 いろは
 ちりやう

けしき
 むらさきの
 いろは
 ちりやう

けしき
 むらさきの
 いろは
 ちりやう

けしき
 むらさきの
 いろは
 ちりやう

けしき
 むらさきの
 いろは
 ちりやう



Handwritten text in vertical columns, likely a poem or a list of items. The text is written in a cursive style.



Handwritten text in vertical columns, likely a poem or a list of items. The text is written in a cursive style.

Handwritten text in vertical columns, likely a poem or a list of items. The text is written in a cursive style.



唐立作
國安

後編
後画

錦城記

Handwritten text in a large, slanted rectangular frame, written in cursive kuzushiji style. The text is arranged in several vertical columns, reading from right to left. It appears to be a title or a chapter heading, possibly related to the '錦城記' (Shinkyo-ki) mentioned in the adjacent block.

夏結

春





あまのついでにわらわ
 のうらみのついでにわらわ
 のうらみのついでにわらわ
 のうらみのついでにわらわ

□たちよりえんでのまほろ
 のうらみのついでにわらわ
 のうらみのついでにわらわ
 のうらみのついでにわらわ



あまのついでにわらわ
 のうらみのついでにわらわ
 のうらみのついでにわらわ
 のうらみのついでにわらわ

あまのついでにわらわ
 のうらみのついでにわらわ
 のうらみのついでにわらわ
 のうらみのついでにわらわ



めづりし... (Vertical columns of Japanese text on the left page)



つげあし... (Caption text for the woman's illustration)

あはれ... (Vertical columns of Japanese text on the right page, surrounding the illustrations)

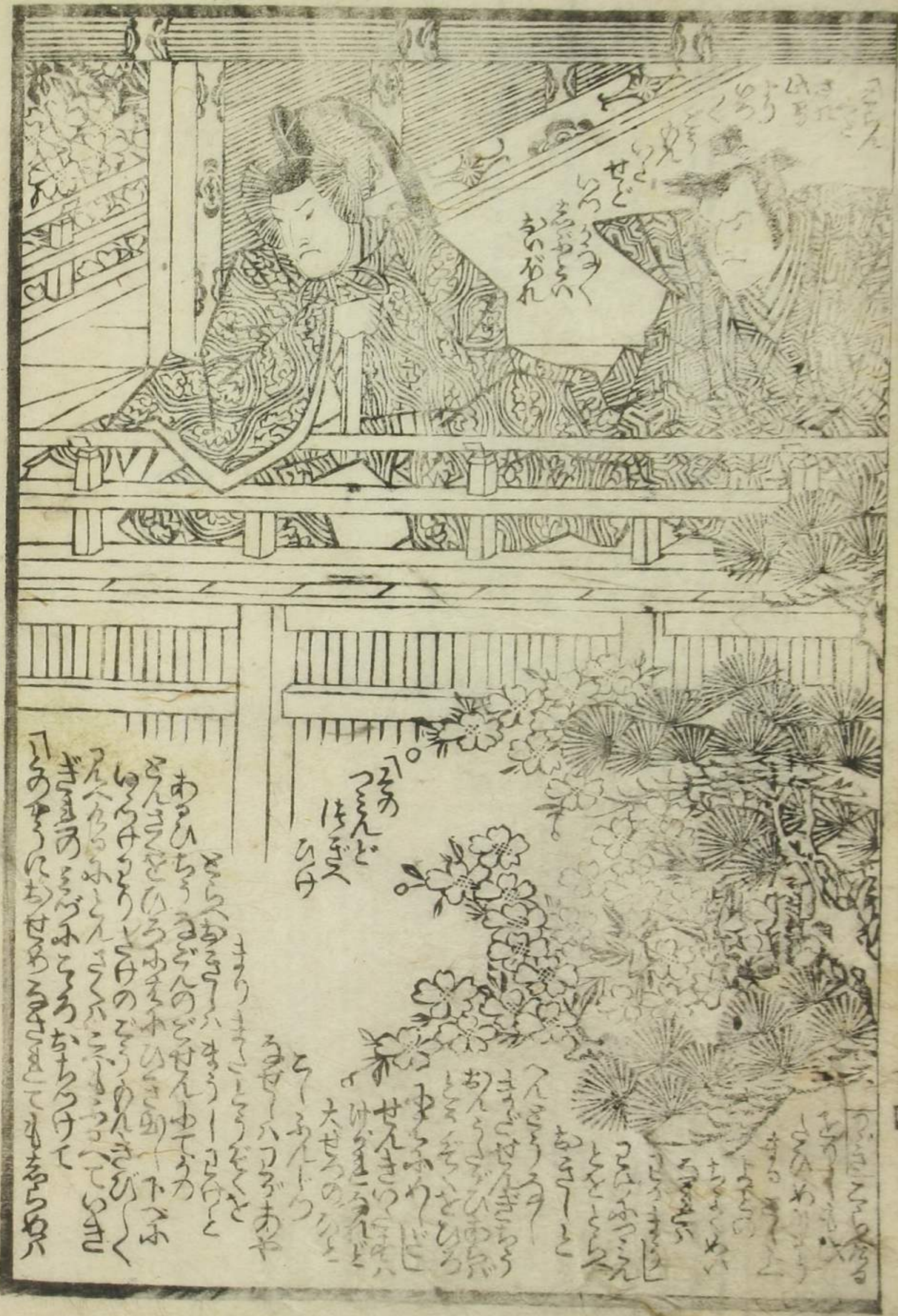


あはれ... (Caption text for the man's illustration)









Handwritten text in Japanese characters, arranged in vertical columns. The text appears to be a collection of notes or a commentary related to the illustration below.



Handwritten text in Japanese characters, arranged in vertical columns. The text appears to be a collection of notes or a commentary related to the illustration below.





夫の心は...
 山崎の...
 その...



あら...
 人の...
 九...

九七
 せん...

九七

わねのまるとひとまきとよとろのまのろ

わねのまるとひとまきとよとろのまのろ
 けいこくはまきとよとろのまのろ
 まきとよとろのまのろ
 まきとよとろのまのろ

わねのまるとひとまきとよとろのまのろ	けいこくはまきとよとろのまのろ	まきとよとろのまのろ	まきとよとろのまのろ
わねのまるとひとまきとよとろのまのろ	けいこくはまきとよとろのまのろ	まきとよとろのまのろ	まきとよとろのまのろ
わねのまるとひとまきとよとろのまのろ	けいこくはまきとよとろのまのろ	まきとよとろのまのろ	まきとよとろのまのろ
わねのまるとひとまきとよとろのまのろ	けいこくはまきとよとろのまのろ	まきとよとろのまのろ	まきとよとろのまのろ
わねのまるとひとまきとよとろのまのろ	けいこくはまきとよとろのまのろ	まきとよとろのまのろ	まきとよとろのまのろ



わねのまるとひとまきとよとろのまのろ
 けいこくはまきとよとろのまのろ
 まきとよとろのまのろ
 まきとよとろのまのろ

わねのまるとひとまきとよとろのまのろ

わねのまるとひとまきとよとろのまのろ
 けいこくはまきとよとろのまのろ
 まきとよとろのまのろ
 まきとよとろのまのろ



わねのまるとひとまきとよとろのまのろ
 けいこくはまきとよとろのまのろ
 まきとよとろのまのろ
 まきとよとろのまのろ





三十

江南亭唐立作
歌川國安画



この書は唐の文藝を
採りて其の妙を
傳へしものなり
其の書は唐の
文藝を採りて
其の妙を傳へ
しものなり

江南亭唐立作
歌川國安画
此の書は唐の文藝を採りて其の妙を傳へしものなり

御免日光御參詣供奉御役人附袋入全冊

新板 御免日光御參詣供奉御役人附袋入全冊

新板 御免日光御參詣供奉御役人附袋入全冊

御免日光御參詣供奉御役人附袋入全冊

御免日光御參詣供奉御役人附袋入全冊

御免日光御參詣供奉御役人附袋入全冊

通油町鶴屋喜右衛門梓行

柳亭種彦隨筆
還魂紙料
廣益懷中早割大全
塵劫記
新形深彩目
戲場似顏早稽古
八文舎自笑評
藝品定役者評判記
當西正月三日
東都書肆
油町翠橋之西詰
仙鶴堂
鶴屋喜右衛門版

柳亭種彦隨筆
還魂紙料
廣益懷中早割大全
塵劫記
新形深彩目
戲場似顏早稽古
八文舎自笑評
藝品定役者評判記
當西正月三日
東都書肆
油町翠橋之西詰
仙鶴堂
鶴屋喜右衛門版

傾城水滸傳初編全冊
繡櫻花本朝女訓全冊
春小袖門本摸樣全冊
尾上松緑百物語
美艶仙女香
古堂徳次
左甚五郎
紅絹甚三
柳屋狂藍
雀屋白鳥
當世職人合
唐人鬘髮全國性爺全冊
仙鶴堂
鶴屋喜右衛門

傾城水滸傳初編全冊
繡櫻花本朝女訓全冊
春小袖門本摸樣全冊
尾上松緑百物語
美艶仙女香
古堂徳次
左甚五郎
紅絹甚三
柳屋狂藍
雀屋白鳥
當世職人合
唐人鬘髮全國性爺全冊
仙鶴堂
鶴屋喜右衛門

